



第5章 計画の推進体制

1. 藤市がめざす生涯学習社会
2. 計画の進行管理
3. 期待される効果



1. 藤市がめざす生涯学習社会



第3次生涯学習推進計画の内容をまとめてみました。

学びへの導入から実践と活用を経て、それが市民や地域に還元されることで新たな学びの場が作られます。この場には、学びを求める市民がつどい、交流の輪が生まれます。計画の基本理念の実現をめざし、交流の輪を広げていくために、行政のみならず、市民や関係機関と連携し協働することで、学びの各段階の支援とそれを支える体制の整備を行います。

藤市がめざす生涯学習社会

＜基本理念＞ “いつでも どこでも 自由に” 学び
みんなで作る まち 藤



＜基本方針＞ 交流の輪を広げる生涯を通じた学びの支援

＜基本目標＞

1. 学びのきっかけづくり

実践

還元

学びから生まれる
交流の輪

＜基本目標＞

- 2. 多彩な学びの場づくり
- 3. スポーツ・レクリエーションで
まち・人・健康づくり

＜基本目標＞

4. 学びを活かす仕組みづくり

活用

連携・協働

NPO・
民間企業等

大学等
研究機関

(市民の)
審議会・
委員会等

学校・
PTA

社会教育
関係団体

市民

市民団体

町会・
自治会

商工会議所・
観光協会

各関係
機関

国・県

＜基本目標＞ 5. 学びを支える体制づくり



2. 計画の進行管理



計画の進行状況は、どうやってチェックしていくの？

本計画に掲載した施策は、PDCA のマネジメント・サイクルにより進行状況を管理しながら、推進します。

- ①計画【Plan】：施策の基本方針に沿った目標・指標を設定し、それを達成するための事業を計画します。また、それに必要とされる予算・人員を配分します。
- ②実行【Do】：目標達成に向けた政策・事業を実施し、その事業に対しての助言・調整・促進を行います。
- ③点検・評価【Check】：行政による評価、市民等で構成する審議会等での意見、アンケート調査等を踏まえて、施策・事業について総合的に点検・評価を行います。さらに、その結果を公表し、評価結果の検証・分析を行います。
- ④改善【Action】：評価の分析・整理を行い、問題点の把握や改善に努め、次の施策の展開や事業計画に生かします。

また、社会情勢や生涯学習を取り巻く環境の変化、国・県・市の生涯学習施策の方向性等の状況により、計画期間（平成 27～36 年度）の途中であっても必要に応じて見直しを行います。

※PDCA のマネジメント・サイクル

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Action（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。第二次世界大戦後、品質管理を構築したウォルター・シューハート、エドワーズ・デミング（いずれもアメリカの統計学者）らに提唱された。





3. 期待される効果



10年後の藤は、どうなっているかな？

本計画の推進にあたり、行政として、市民とともに連携・協働で生涯学習によるまちづくりをすすめるため、学習情報の発信、地域人材の発掘、市民団体への支援、地域ボランティアの養成等に努めます。一方、市民が協働のパートナーとしての意識を持ち、地域課題の解決、地域の教育力の向上のために、学びの成果を還元できるよう働きかけます。

生涯学習社会の実現のためには、学習の成果が適切に評価され、その成果がさまざまな形で活用されることが必要であり、そのことが学習者にとっては生きがいの創出、地域にとってはまちの活性化という効果を生み出します。

この効果は、社会教育施設の利用者数や事業の実施数・参加者数といった数値の評価（アウトプット指標）だけで測ることができるものではなく、むしろ、その事業に参加をすることで生じる成果、つまり市民の意識・行動の変容、地域社会の変化等の評価（アウトカム指標）で測ることも重要です。

本計画では、このような視点に立った取り組みを行うことにより、学習の成果を生かした“生涯学習社会の実現”から活力ある“まちづくり”へつながることを期待します。

※アウトプット指標

事業数やその対象となった人の数、参加者数等を図る指標。

※アウトカム指標

施策や事業の成果を測る指標。人々の意識や行動の変化、地域の変化等、具体的な効果や成果をもたらしたか問う指標。

